

# みずのき美術館のデジタル・アーカイブ

コレクションのデジタル化

記録に関する課題の解決策として、作品の撮影と、デジタル・アーカイブの運用を行う。なお、デジタル・アーカイブの構築・運用については、デジタル・アーカイブ・システムを導入し、施設と絵画教室にまつわる年表を公開した2014年度を第一期、約700点の作品資料を登録した作品ページを新たに設けた2015年度を第二期、そして約18,000点の所蔵作品（※5）全ての撮影・登録を目標とする2016年度を第三期と定義している。

〔中略〕

第三期は、約18,000点の所蔵作品をすべて登録して、そのほとんどを美術館内の端末で一般公開し、一部を美術館のホームページ上でも閲覧可能にする予定。

アーカイブズのデジタル化

2016年度までの事業では、最優先課題である作品を中心としたデジタル・アーカイブの充実化に取り組むが、次年度以降は、西垣や当時絵画教室を担当していた職員が書いた日誌、当時施設の会報誌に掲載された絵画教室の紹介文、西垣が生前みずのきについて書いた本や寄稿したテキストなど、絵画教室に関するあらゆる資料を対象として収集・データ化・公開する予定。また並行してオーラル・ヒストリー（※10）により新たに口述史料を収集・公開する。こうして、デジタル・アーカイブにより多面的に情報が貼り付けられている環境を作り出し、維持することで、誰もが「絵画教室がどういう時間だったのか」を知ることができ、それを元にあらゆる検証・研究を行える状態を目指す。

「みずのき美術館 保存と記録の取り組み—アール・ブリュット美術館初となる本格的な作品保管環境の整備とデジタル・アーカイブ事業」、ウェブサイト『AMeeT 京都から世界へ』 [http://www.ameet.jp/digital-archives/856/#page\\_tabs=3](http://www.ameet.jp/digital-archives/856/#page_tabs=3)